

長野市立信里小学校3学年・4学年

里山の命のつながり ～シナイモツゴ学習から学んだこと～

長野市立信里小学校の3・4年生は、地域に生息する希少な淡水魚「シナイモツゴ」に注目し、その保全活動を通して命の大切さと外来種問題について学びました。学校の近くのため池を拠点に、卵の観察から飼育、外来種駆除、肥料作りまで、多面的な学習を展開しました。

稚魚のふ化と飼育

専門家の中野先生の指導のもと、児童たちはため池からシナイモツゴの卵を採取し、教室でふ化させました。成長の過程を観察しながら、水換えや給餌などの日々の世話を通して命を育む体験を積みました。

外来種の駆除と葛藤

学校の池にシナイモツゴを放流しようとしたところ、外来種であるアメリカザリガニが生息していることがわかり、ザリガニの駆除活動に踏み切りました。児童たちは「命を奪うこと」への葛藤と向き合いながら、駆除後のザリガニを肥料として再利用する方法を学び、実践に移しました。

命のつながりを実感

駆除したザリガニを干して砕き、肥料として花壇に撒いた結果、花の生育が良くなる様子を観察。外来種も資源として生かす方法を学ぶ中で、命の尊さと、自然の中でのつながりの深さに気づくことができました。